

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100094		
法人名	株式会社 ハートfeltクア		
事業所名	グループホーム くるみ（1ユニット）		
所在地	〒028-8804 岩手県九戸郡洋野町常島7-44-3		
自己評価作成日	令和7年2月10日	評価結果市町村受理日	令和7年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周辺環境に自然が多く、動植物を目の当たりにする事により、想い出と共に良い感情への刺激や会話作りに繋げることができます。また、敷地内で畑を共同に行いながら、「育て・見る・収穫する」など個々の楽しさや喜び、食べる有難さを実感できる方もおられます。施設環境では、ユニット間の往来が自由にできる事から、利用者様同士が交流しやすい環境を活かしながら、日頃の介護や余暇活動を行なっております。行事においても、対人関係に留意しながら、交流を深める場の提供を目指しております。利用者様や職員の中には、地域の出身の方が多く、入居に不安があった方も馴染みやすいようで、対人関係においても安心できる様子が伺えます。地域出身の職員が多い事から、地域の行事や清掃活動に積極的に参加することができ、地域の方との交流をスムーズに図る事ができています。職員の中には、地域に根ざした施設を大事に思っている方が多く、お互いに理解を持ち、支援出来るように心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

丘陵地にあつて、周囲には住宅が点在し、敷地内に地域住民が大切に管理している開墾の石碑が建立されていることもあり、積雪時の除雪や花壇整備など、様々な面で地域の協力を得ている。地元小学校とは長年交流を続け懇意な関係の構築に努め、また、運営推進会議には地域の多方面で活躍されている方々を委員として委嘱し、地域との関係づくりを大切にしている。事業所では、利用者一人ひとりの過ごし方を尊重し、利用者の思いに寄り添った支援を基本にしている。小規模多機能ホームが併設され、機械浴等の設備などを適宜活用できることから、利用者の状況に応じた入浴支援が可能となっているほか、その看護師は利用者の医療的な処置や相談、職員に対する医療的な助言等にも応じてくれている。職員の配置が必ずしも十分ではない中にあつて、日常の外出機会が少ないことなどの改善が必要と管理者は捉えており、管理者のリーダーシップにより、利用者の思いの実現に向けた様々な工夫を積み重ねていくことが期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

「評価機関：特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会」

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は分かりやすい場所(玄関前通路)に掲示しています。職員の名札の裏にも明示し携帯しております。「おもてなしの精神と、真心を込めた福祉サービスを通じて、健康の促進・向上を図り、生き甲斐と幸福を感じていただく福祉事業の実現を目指します。」を実現させる為に、各事業所で重点目標を立てて実施しております。各事業所の重点目標も理念と一緒に掲示しております。	法人が定めた企業理念や行動指針と併せ、事業所ごとに重点目標を設定している。玄関前の確認しやすい場所に掲示し、職員が常時携帯している社員証の裏面にも書かれ、適宜確認ができるようになっている。また、毎年、職員が目標を設定し、企業理念を基本に据えたケアの実践に取り組んでいる。	事業所目標(重点目標)について、毎年定期的に振り返る機会を設け、事業所目標の達成、事業所理念の追求、実現につながる取り組みが行われることを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスが2類から5類に移行した事で、感染予防の観点から最小限になっていた地域との関係も少しずつ戻しています。例えば、地域での草取り・花植え、同地域小学校との交流を通じて、文化祭やマラソン大会の参加(見学)を行っております。	職員の多くは、地域内に住んでおり、地域で清掃作業等があれば、できるだけ職員が参加するようにしている。事業所で作った野菜を近所の方へお分けしたり、近所の方からいただいたりするなどのやり取りがある。また、近くの小学校児童が事業所へ見学に来所したり、マラソン大会があれば、利用者が沿道で応援をしたりして、交流の機会を設けている。昨年は、利用者と職員と一緒に作品を作り、町の文化祭へ出品し、金賞をとっている。地元婦人会の踊りの慰問のほか、敷地内にある開墾の碑周辺の環境整備や積雪の際は、近所の方が事業所までの道路の除雪をしていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の草取りや花植えといった清掃作業、同地域小学校での行事参加等を通じて、事業所としての在り方を少しずつ理解して頂いております。最近では同地域小学校生徒の方たちが施設見学に来て、利用者様や施設の中等を見て、触れて、知って頂き、後日生徒の方たちより利用者様に手紙を頂きました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年からコロナウイルス情勢により、運営推進会議が行えていない状況でした。前年度の地域有識者も一部変更・追加させて頂きました。有識者様には、利用者様の日々の体調の変化や施設での行事、イベント事に関連した報告をすると共に、運営推進会議を開催する予定です。その際には、情報共有・意見交換等を行なって頂きたいと思っております。	コロナ禍により、運営推進会議を行えていない状態が続いていたが、令和7年5月には開催できるように準備をしている。運営推進会議のメンバーとしては、地域の町議会議員、地域包括支援センター担当者、民生委員、消防団分団長等10名をお願いしている。	運営推進会議は、事業所への理解を深めるとともに、外部の視点で事業所の課題解決やサービスの向上につながる意見、提言をいただける機会として、定期に開催されるよう期待します。併せて利用者や利用者家族も構成メンバーに加えることについて検討されることを期待します。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	通知文やメールなどの情報を参考にさせて頂きながら、洋野町や振興局主催の研修にて情報等も共有させて頂いております。	地域包括支援センターや町社会福祉協議会、広域連合等からメールなどを通じて、様々なお知らせが届くほか、地域包括支援センターからの相談に応じながら、相互の情報共有を図っている。また、事業所の管理者が、町の自殺対策推進ネットワーク連絡協議会のメンバーとして、町の施策に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに基づいたケアを実施しております。委員会や研修を通じて理解し、自分達が行っているケアが適切であるか検討し、身体拘束に発展しないように努めております。	事故・身体拘束適正化委員会を設置し、毎月開催し協議を行っている。スピーチロックと思われる言葉遣いがあった場合には、その場で管理者が主となって注意、助言等している。離床センサーを使用する際(2ユニットで計5人)は、できるだけセンサー以外の方法を試みるにより、あくまで離床センサーは最終手段であるとの意識が徹底されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や研修を通して、学ぶ機会を持ち、理解と防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を年1回開催し、職員の理解に理解に努めております。支援困難な方には、成年後見制度を活用する事を検討し、適切な支援ができるように務めております。現在、1名の成年後見制度活用を検討中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または法改正等があった際は、ご家族様と施設で契約更新を行っております。その際に、不明な点等もお伺いし、ご家族様に理解、納得して頂けるように努めております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時またはケアプラン作成・更新の際には、利用者様、ご家族様に希望を確認し、要望や意見を頂戴し、プランに反映するように配慮しております。	事業所内に設置した「ご意見箱」は、法人の社長ののみが開けることができる。利用者の要望を聞き取った場合には、記録で残し職員間で共有できるようにしている。併設の小規模多機能ホームで行っている活動への参加を希望した利用者が、手芸などの趣味につながった事例がある。家族等との面会は、現在も玄関でお願いしている状況である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者様の体調の変化や病院受診内容、家族様からの要望等の伝達事項は、職員全体でいつでも確認できるように日々の申し送りにて情報共有を行っております。毎月業務カンファレンスや利用者様の個別状況についてケアカンファレンスを実施し、ケア内容の検討や周知、職員間での不安や不満を聞く事ができるように取り組んでおります。	毎月、全職員が出席する業務カンファレンスを開催しており、物品の不足や、業務上の意見などがあれば、管理者が聞き取りや対応などを行っている。法人幹部が来訪した際には、管理者を通じて意見、要望等を伝えるようにしている。年1回、管理者と職員が個人面談の機会を通じて、年間の個人目標の設定、待遇面やスキルアップ、キャリアアップなどを聞き取り、働きやすい職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務カンファレンスやケアカンファレンスでは職員の意見を尊重して行なっております。また施設管理者による職員の個人面談を実施し、職員の思いを聞き、働きやすい職場環境を作れるように努めております。今年は、4月頃に個人面談を順次実施する予定です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3つの委員会を毎月開催しております。その中の教育・感染予防対策委員会で、年間研修計画を立て、研修を実施しております。また、ZOOMでの外部講師による研修や、介護未経験者においては、初任者研修への参加により、職員一人ひとりのスキルアップができるように努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議や、同地域診療所医師が講師となって同地域役場主催の研修に参加しています。研修に参加し、同業者との交流も図っております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時から本人様と家族様の望んでいる事、不安に思っている事等、情報収集をしっかり行い、ケアについて話し合いをしております。本人様、家族様の意見や意向を汲み取り、不安や不満の軽減、解消できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談時には施設見学をして頂いています。こういった利用者様がいて、どのように過ごされているか知って頂く機会を可能な限り、積極的にこなっています。また月々の請求金額に対しての問い合わせや、利用者様の体調面の変化による病院受診に関連した報告、面会・外出・外泊時には、日々の生活状況の報告などを行ない、相談と今後のケア内容への反映に努める事で、家族様との信頼関係作りを行なっております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時での情報収集時、現時点での本人様・家族様の不安や負担になっている部分を探る事で、今後考える状況や状態をアセスメントしております。他事業所でのケア内容についての相談も受け入れしたケースもあり、いろいろなケースに柔軟に対応出来るように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能の維持、向上の観点から出来る事、出来ない事を観察して上で、必要な部分に必要な分のケアを行なっております。職員と一緒に作業する事も取り入れる事で、関係を築き、利用者様にとって、ここが生活の場としてより良い環境になることが出来るように努めております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主介護者の高齢化に伴い、面会・外出・外泊などが容易ではない状況にあるケースも少なくありません、その為、全ての利用者様の施設での様子、状態の報告として、主介護者様へ3ヶ月毎に手紙を郵送しております。		

事業所名：グループホーム くるみ（1ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設のバスを利用したドライブ、同地域小学校生徒との交流を通じて、地域の方達との関係を持てるように働きかける事で、「昔」を思い出したり、施設内では聞いた事なかった話題を引き出す事もできています。日々マンネリ化しがちな生活に外部からの刺激を加える事で、活動性の維持・向上に努めております。	入居の相談時や計画立案時の聞き取りの際に、利用者の馴染みなどの把握にも努め、知人の方が面会に来訪した場合には、関係上、支障がない限りは、面会が可能としている。家族から希望されれば、外出も可能である。利用者の多くが地域出身の方が多く、地域にある床屋さんが馴染みの利用者がおり、適宜連絡をして散髪してもらっている。希望するおやつや日用品なども、地域の商店に電話でお願いして届けていただく方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の誕生日には、誕生日会を開催し、施設からの誕生日プレゼントや昼食をいつもより豪華にし、ケーキも提供しております。その他、月行事担当者が企画し、お菓子作りやドライブ、時期によってはサクランボ祭りといったイベントを定期的に行い、参加を促す事で、他者との交流の機会を積極的に作る様に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院期間や状況・状態によっては、契約終了をせざるを得ないケースもあります。しかし、家族様や主介護者から今後の展開についての福祉、医療面での相談を受ける事もあることから、よりよい関係を築く事が出来るように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活環境も含め情報と併せて、日々の言動観察、希望や訴えの傾聴、介護職員、ケアマネ、隣接している施設看護師、管理者間によるケアカンファレンスの実施をしております。それにより、本人様の意思の尊重をできるように努めております。また、意思疎通が困難なケースにおいては、「どうすることが本人様の為になるのか、家族様は何をしてほしいのか」という、職員全員で考え、ケアカンファレンスを実施、検討しております。	利用者のほとんどは、自らの意思表示が可能であり、本人の思いなどを聞き取った際には、朝、夕の申し送りなどで職員間で共有できるようにしている。意思表示が難しい方には、関わりが長い職員が、動きなどを見て、本人が考えていると思われることを汲み取り、職員間で共有している。聞き取った本人の希望は、カンファレンスを通じて、ケアプランに反映するようにしている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントする為に、対面での情報収集をし、既往歴、現病歴、福祉・医療的介入の必要な情報だけではなく、生活背景や本人様を取り巻く環境についても家族様への聞き取りを徹底しております。その上で必要に応じたケアの変更、ケアプランの修正・変更は適宜行なっております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察と情報共有を徹底するように努めております。夜間における睡眠時の状況から、朝の体調観察(バイタル測定や表情等)や日中どのように過ごされていたか前日と比較してフィードバックが出来るように、客観的視的からの記録化により、個人の現状把握を行なっております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体(介護職・調理職)で個人の生活状況を観察しております。そしてその状態を全体で情報共有し、毎月のケアカンファレンスで議題として上げる事で、常に個人を取り巻く状況と、状態に応じた適切なケアが実践できるように努めております。	アセスメント、計画作成、モニタリングは、サービス計画作成担当者と利用者の担当職員が中心となって作成している。毎月、各利用者ごとにケースカンファレンスを開催しており、都度見直し等が行われ、本人、家族には専門用語を用いないで説明するよう心掛けている。通常、3カ月の短期目標、6カ月～12カ月の期間で長期目標を設定をしているが、状態の変化によっては、適宜変更もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は本人様の言動から思いや考えを汲み取り、客観的、主観的情報として、パソコンに記録化しております。それにより、情報をいつでも確認する事が可能となり、よりよいフィードバックが出来るように努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の要望によっては、地域の美容院に散髪依頼をし、施設に来て頂き散髪を行なっております。施設で提供しているおやつ以外にも食べたい物がある場合には必要に応じて近隣の商店で買い物(配達)を行なっております。その為、本人様の要望を職員全体で情報共有、家族様への許可などを得て、可能な限り要望に沿えるように努めております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同地域小学校との交流や、地域住民との関わり(文化祭等)を通じて、コロナ過以前の状態に少しずつ戻ることができるように努めております。また、時期によっては近隣住民の方から、野菜などを頂き、いつもの食事に彩りを加える事ができ、さらに、施設の畑で作ったトマトなどの野菜を頂いた近隣住民の方に食べて頂いたり、関係性で協働できるように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力体制にある機関(系列クリニック、同地域診療所)への必要に応じた受診には、家族様へ報告・連絡・相談をし、受診許可を頂いた上で受診対応しております。また必要に応じて県立病院への臨時受診対応も行なう事で、重篤な状態になる前に、診察・治療を適切に受けられる様に努めております。	利用者の半分程度は、地域にある診療所医師による訪問診療を受けているほか、かかりつけの医療機関には職員が付き添っている。家族が対応を希望する場合は、現在の様子を口頭又はメモにして伝え、受診後には、家族から受診時の様子などを聞き取りし、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(隣接している施設看護師)は、本人様と定期的にコミュニケーションを図る事で、前日・前々日と比較して体調の変化や自発的に訴える事が困難な利用者様の状態観察に努めております。状態の変化や、異常時に気付いた際は、隣接している施設看護師に相談、報告ができる体制を取っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後、早期にケアマネが情報提供書を作成し、医療機関へ届けております。施設での生活状況、ADL等の情報を適切に伝達し、退院が決まった際には、身体的、精神的変化についての確認を行っております。場合によっては施設内で医療行為が必要になる場合は、特養など適切な退院先として話し合いの場を設けて頂き、退院前カンファレンスにも同席した事もあります。		

事業所名：グループホーム くるみ（1ユニット）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力体制にある機関は、系列クリニックと同地域診療所となります。施設の近隣という事もあり、看取り対象のケースは同地域診療所医師に診察を依頼しております。また、内部研修での内容として年に1回職員には、終末期にあたる利用者様への研修を順次開催する事で日々のケアの向上に努めております。	家族から看取りの希望があれば、対応は可能であるが、医療的ケア（経鼻経管栄養など）が必要な状態となった場合には対応ができないため、医療機関や特別養護老人ホーム等への変更の可能性あることを契約時に必ず説明している。看取り対応をした職員には、管理者がこまめに声掛けをして、心理的なフォローをするように努めている。また、3月に施設看護師が講師となって、全職員に対して、救急対応を含めた研修を行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに基づき、対処、対応できるようにしております。加えて施設看護師へのオンコール体制により夜間帯における急変時や、転倒・転落に伴う事故の指示出し等、必要に応じての出動、救急要請の指示出しを行なう事で、早期発見、早期対応にて重篤な状態にならないように努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼して年2回の避難訓練を実施しております。自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を作成し、危険場所の把握をしております。また、地域の状況的に大雪にみまわれる事もあります。その時は、一時避難場所として、地域住民に施設の一部(会議室)を寝泊りできる空間として提供できるようにしております。	消防署の立ち合いの下で火災想定避難訓練を実施し、火災時の対応について確認している。洋野町の帯島地域は比較的雪が多く、その影響で停電になることがあり、その際には避難する地域住民（高齢者）を受け入れている。自然災害発生時の業務継続計画を作成し、3日間程度の食材や発電機、灯油ストーブなどを備蓄している。今後、火災や災害発生時に備えて、地元消防団などの地域住民との連携を図っていきたいとしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であると同時に、個人の生活の場でもある為、施設の時間(食事・睡眠等)で縛ることがないように介入するように努めております。個々の性格や言動を把握し、対応させて頂く中で、利用者様が不快を与えないように留意しながら、対応しております。	職員の都合に合わせずに、食事も本人の希望する時間、場所にするなど、利用者の希望に添った対応に努めている。プライバシーの保護についても、マニュアルに沿って事例に基づいた研修に取り組み、職員間の理解のばらつきがないようにしている。個人情報取り扱い、入浴や排泄時の対応についても個々の人格、プライバシーに配慮にした支援に努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共同生活の場であると同時に、個人の生活の場でもある為、一人ひとりのライフスタイルを崩さないように介入しております。例えば、テレビを見たい人、塗り絵をしたい人、計算問題を解きたい人、日光浴をしたい人等、過ごし方はその人自身に任せることで、「やりたくない事」を決して強要しないように努めております。加えて、尊重、プライバシー、自己決定の観点からも、内部研修のテーマとして通年で実践しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での時間を設けているのは食事・おやつの時間です。食事・おやつの提供においても個別の要望に対して時間で介入していた為、施設側から時間を強要する事がないように努めております。本人様はその時の気分や調子から自ら選択と判断ができるようにして、どんな些細なことでも、自己決定できるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	尊厳とプライバシーの観点から、外見におけるおしゃれは自由です。またモーニングケア(洗顔、整髪、髭剃り等)や現在は要望がありませんが、お化粧をしたいのであれば自由であり、より自宅で生活していた時のように施設で過ごせることができるように努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビ鑑賞しながら、利用者様同士で会話をしながら食事摂ったり、また静かに食事を摂りたい時は、個人の思いと考え、その時に気分に合わせた介入をしております。咀嚼嚥下機能の維持、工場を目的とした口腔体操を食事前に行なっております。食事の準備や食器の片付けを職員と一緒にこなす利用者様もおります。	調理を得意としている利用者に限らず、個々の能力、意欲に応じて、職員と一緒に調理や準備、片付けなどを行っている。献立は、利用者の嗜好や希望などを聞き取った上で作成し、その中で「ひつまみ汁」は好評である。また、誕生日には、ケーキを用意している。食材の購入は、地域との関係を考慮し、主に地域内にある店を利用している。ご近所から野菜などの差入れを頂くことも多く、食材として利用している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼嚥下機能については、利用相談の段階で確認はするものの、入居直後、身体機能低下に伴い、食事形態は適宜変更しております。それにより、自発的な咀嚼を促すと共に、飲み込みへの障害を解消、引いては食事そのものに対して食べる事の楽しみをサポートすることに努めております。また、水分摂取量は日々の介護記録に記載することで、客観的情報としてのインアウトバランスを出しています。それにより、脱水症状を招く事がないようにし、また疾患や感染症による脱水傾向にある利用者様に対しては、より重篤な状態を防ぐ目的も含めて定時で水分摂取の介入をするように努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、食事摂取後利用者様に促し、また必要に応じて介護職員が口腔ケア介助を行なっております。口腔内のトラブルとして、口内炎や、義歯の不具合といった訴えや報告を、隣接している施設看護師へ報告する事で、近隣の歯科への受診や、訪問歯科も可能となっております。毎食前に口腔体操を促す事で、咀嚼がスムーズになることで誤嚥を招くことがないように努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意を感じて、自発的行動化として排泄行為ができる利用者様に関しては、排尿か排便か口頭確認を行なっております。その他の利用者様に関しては、排尿回数やおおよそその一回量を入居後から一定期間観察し、オムツやリハビリパンツ・パッドの検討など情報収集した後にアセスメントを行なっております。不必要なオムツ等の使用をなくし、本人様の不快感の軽減解消に努めております。	一人ひとりの排泄時の状況を確認し、記録に残して職員間で共有している。排泄状況から、排泄誘導のタイミングをケースカンファレンス等で検討し、利用者個々に排泄介助や方法を決めて実践している。失敗した際には、さり気ない声掛け誘導に留意している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居前から便秘状態にある利用者様もいる為、食事・運動面で排便を促す事ができるように努めております。また、主治医へも施設生活状況と現在の身体的精神的状態を報告している為、緩下剤を処方されている場合もあります。その際は、単に本人様の「便が出ない」という言葉だけではなく、排便チェック表を確認し、現在で排便がない状態が何日目なのか看護師に報告・相談し指示を頂き、排便コントロールに努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数は、一週間に2回と設定していますが、夏の時期や生理的状态によっては、その時の状況に合わせて入浴する事も可能にしております。白癬菌を抱えている利用者様のいる為、主治医に報告・相談のもと、軟膏処方、足浴の定期的な介入等を行なう事で、感染症の早期発見と早期対応に努めております。さらには、本人様のその時の気分や熱発を伴う不調で入浴できない方には、必要に応じて清拭対応を行なっております。清潔保持に努めております。	職員配置の都合により、月曜日から土曜日までのうち2回の入浴としており、1人ずつ家庭的な雰囲気のある浴室にて対応している。そこでの対応が難しい場合には、隣接の小規模多機能ホームにある機械浴槽を使用している。本人の状態や機能等に応じて、介助内容を柔軟に変える体制ができています。水虫がある方は毎日足浴を行っている。入浴を嫌がる利用者には、時間を変更したり、入浴日を変更するなどして、できるだけ週1回以上は入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、ライフスタイルに配慮した関わりができるように行っています。例えば、起床後はカーテンを開け、室内に日光を入れる事により、サーガディアンリズムを整える、疾患や症状に左右された昼夜逆転傾向にあるケースでは無理に昼の覚醒と、活動を促すのではなく、それが自宅でのその人のライフスタイルならば、職員がそこに合わせた関わりを行うことで、個別状態、状況に合わせた介入に努めています。また、昼夜逆転や不眠に悩みに抱えているケースでは、隣接している施設看護師に報告・相談し、必要に応じたDr報告もスムーズに行うことで、よりより休息が保たれるように努めております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬・軟膏薬・貼付薬などは、全て施設で管理し、誤薬・怠薬・処方切れがないようにしています。また、処方に関連した情報は、すべての職員がいつでも確認できるようにパソコン(申し送り)に入力をしているとともに、カルテにも内容を保管し、ミスが起こらないように努めております。さらには、身体的精神的状態によっては、適切に服用して頂く事が困難なケースもあります。その際は、事前にDrへ錠剤から粉碎指示を受ける事で、適切に薬物療法をサポートできるように努めております。加えて、施設看護師からの内服薬についての基礎知識を確認しやすい状況にある為、薬の知識についても少しずつ各職員が得られるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活状況をもとに役割を見つけ、余暇活動やレクリエーションを提供しております。調理作業や片付け、個別で何かしたいと希望があれば、その希望に沿うように配慮しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が減っている状況です。人員不足もあり、希望に沿うサービスができていないのが実情です。来年度から外出の機会を増やしていくように検討しております。本人様や家族様の希望に沿うようなサービス提供ができるように努めます。	職員配置の都合もあり、屋外散歩など日常的に外出することは難しい状況にあるが、室内での日光浴、小規模多機能ホームと合同の花見や道の駅での買い物、小学生のマラソン大会の沿道応援など、工夫しながら対応している。家族が一緒に外出を希望して出かける利用者もいる。今後、系列事業所の協力を得て、買い物、食事、少人数での外出の機会を増やしていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、現金を所持している方は一人もおりません。トラブルの原因になる為、契約時家族様へ説明し、同意を得て現金の持ち込みは制限させて頂いております。何か買い物の希望があった際は、施設の立替で対応しております。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム くるみ (1ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様希望があれば、電話を行ったり、手紙の郵送を行なっております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じて、明かりやブラインドカーテンの調整、室内温度や湿度は毎日確認して配慮しております。	施設内のところどころに、利用者と職員が一緒になって作った季節に合わせた創作物や行事写真等が適度に飾られ、落ち着いた雰囲気でも過ごせるようになっている。共用空間は広く、エアコン等で温度管理されていて、できるだけ温度差がなく、快適に過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のホール環境を活用して過ごして頂き、気の合う方達で過ごして頂けるようにしております。また、ソファを設置しております。ソファに横になりたいと希望ある利用者様にはソファに横になり休息の時間を提供できるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険だと思われる物以外は、持ち込みの制限をしております。本人様やご家族様の要望に合わせて、対応させて頂いております。	部屋には、ベッドやクローゼットがあり、衣装ケースやテレビ、位牌や遺影等、家族や本人の意向に沿って持ち込んでいます。また、利用者自身の好みで写真や創作物等が飾られている。部屋の温度管理は、共用部にあるエアコンでも十分ではあるが、利用者の要望等も確認しながら暖房器具を設置し、快適に過ごせるように工夫されている。居室清掃やシーツ交換は、専門の職員が対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の歩行通路の環境整備を心掛け、危険物や障害物に対して配慮しております。トイレだとわかるように「トイレ」と記載した紙を貼ったり、自分の居室がわからなくなる利用者様に対しては、居室扉に名前を付けております。		